

平成23年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年4月8日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 コシダカホールディングス
 コード番号 2157 URL <http://www.koshidakaholdings.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 腰高 博
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員グループ管理担当 (氏名) 土井 義人
 四半期報告書提出予定日 平成23年4月13日 配当支払開始予定日

TEL 027-280-3371
 平成23年5月9日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年8月期第2四半期の連結業績(平成22年9月1日～平成23年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年8月期第2四半期	13,891	30.3	1,648	21.0	1,597	17.1	1,958	195.8
22年8月期第2四半期	10,658	22.6	1,361	157.5	1,363	214.5	661	298.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年8月期第2四半期	81,583.90	—
22年8月期第2四半期	27,576.89	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年8月期第2四半期	17,695	5,627	31.1	229,521.10
22年8月期	11,975	3,751	30.8	153,648.52

(参考) 自己資本 23年8月期第2四半期 5,508百万円 22年8月期 3,687百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年8月期	—	2,900.00	—	5,800.00	8,700.00
23年8月期	—	5,000.00	—	—	—
23年8月期(予想)	—	—	—	5,000.00	10,000.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年8月期の連結業績予想(平成22年9月1日～平成23年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,370	29.4	3,245	29.6	3,162	22.6	2,329	107.0	97,062.00

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 有
新規 1社（社名 株式会社シュクラン ）、除外 1社（社名 ）、
(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有
(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
① 会計基準等の改正に伴う変更 有
② ①以外の変更 無
(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)
① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年8月期2Q 24,000株 22年8月期 24,000株
② 期末自己株式数 23年8月期2Q 1株 22年8月期 1株
③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年8月期2Q 24,000株 22年8月期2Q 24,000株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信【添付資料】P. 3「(3)連結業績予想に関する定性情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第2四半期連結累計期間)	7
(第2四半期連結会計期間)	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、新興国向けの輸出が回復し緩やかな持ち直しが示されるも、依然として需給ギャップが残る内需が引続き低調なため、景気の回復力は脆弱な状況となっております。また所得環境に改善が見られず、将来の生活不安も払拭されないため、個人消費も低迷が続いていることから、中でも余暇活動関連支出は低調に推移いたしました。

【カラオケ】

カラオケ市場は、中小規模のチェーンやカラオケ店の廃業・閉店が続く一方で、大手チェーンへの集約化と新店攻勢が進行し、競争は激しさを増しております。

このような経済環境と事業環境の中で当社グループは、当第2四半期連結累計期間において8店舗（建築出店2店舗、居抜き出店6店舗）の新規出店を行い店舗網の拡大（当会計期間末315店舗。賃貸契約の終結に伴う閉店2店舗を含む。）に努めると共に、内外装等ハード面の一新と料金等営業施策などのソフト面の見直しを併せた大規模リニューアルを25店舗実施（平成20年11月以降累計80店舗実施）して既存店の集客力の維持拡大に注力するとともに、9月の定例「グランドメニュー」の改定、10月の「Bゴルフフェア（全国B級グルメフェア）」第2弾、11月の「宴会メニュー」、12月の「いちごフェア」および2月の「元氣出していくわ（198）フェア」などにより、飲食メニューの多様化と質的向上を図り、飲食売上の拡大に努めました。

また、韓国での出店展開のためのソウル市内1号店開設準備も継続して進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のカラオケセグメントの売上高は86億43百万円（前年同四半期比 5.1%増）、セグメント利益は11億40百万円となりました。

【カーブス】

健康への関心の高まりが背景となって、「女性専用の30分フィットネス」としてのカーブスは中高年齢層を中心に認知が広がり、フィットネス業界において独自の地位を確立しつつあります。

そのような中、FC本部としては、既存店の業績向上を目的とする会員増強プログラムの開発と推進支援を通じて加盟事業者の多店舗展開を支援するとともに、スタッフの会員サービス力の向上施策を本部での集合研修、地区別研修会・会議の開催、加盟店訪店など様々な形態で努めてまいりました。さらに1月には、カーブス会員向け通信販売商品にプロテインが加わったことにより通信販売売上全体が好調に推移しております。

また、グループ直営店においては、店舗網の拡充を図るとともに、出店展開を通じて獲得されるノウハウの交流にも取り組みました。

これにより、当第2四半期連結累計期間において、加盟店舗数は74店舗増加（内グループ直営店3店舗増加）して938店舗（内グループ直営店36店舗。株式会社シュ克蘭の連結子会社化による増加19店舗を含む。）となり、当会計期間末加盟会員数は27千人増加し350千人となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のカーブスセグメントの売上高は36億10百万円（前年同四半期比48.5%増）、セグメント利益は5億67百万円となりました。

【ボウリング】

平成22年9月1日付で株式会社スポーツの株式を取得し、当社グループが培ってきた「居抜き出店方式」のノウハウを活用してボウリング場の再生による店舗展開を開始いたしました。当第2四半期連結累計期間に2店舗出店を行い、店舗数は14店舗となりました。また、全店舗で「健康ボウリング教室」を定期的に開催して、主として若い頃にボウリング経験のある中高年層の掘り起こしと固定客化に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のボウリングセグメントの売上高は14億64百万円、セグメント損失は77百万円となりました。

【不動産管理】

株式会社スポーツの連結子会社化に伴い報告セグメントとして不動産管理事業を追加しておりますが、同セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は2億88百万円、セグメント利益は1億41百万円となりました。

【その他】

平成22年10月に群馬県高崎市に温浴娯楽「箕郷温泉まねきの湯」を「居抜き出店方式」により開設致しました。これにより、その他セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は77百万円、セグメント損失は22百万円となりました。

以上により、当社グループ（当社及び連結子会社）の当第2四半期連結累計期間における売上高は138億91百万円

(前年同四半期比30.3%増)、営業利益は16億48百万円(前年同四半期比21.0%増)、経常利益は15億97百万円(前年同四半期比17.1%増)となりました。

株式会社スポーツの連結子会社化に伴う負ののれん発生益など特別利益として11億93百万円計上する一方で、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額及び減損損失など特別損失を1億94百万円計上しましたので、四半期純利益は19億58百万円(前年同四半期比195.8%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①財政状態の状況

当第2四半期連結累計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて57億20百万円増加し176億95百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4億24百万円増加し55億81百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の5億87百万円の減少、売掛金の3億8百万円の増加および商品の1億83百万円の増加などによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて52億95百万円増加し121億13百万円となりました。主な要因は、土地の28億50百万円の増加および建物及び構築物の14億54百万円の増加などによるものです。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて12億96百万円増加し64億76百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の1億65百万円の増加および預り金の1億23百万円の増加などによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて25億47百万円増加し55億91百万円となりました。主な要因は、社債の21億60百万円の増加などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて18億75百万円増加し56億27百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の18億18百万円の増加などによるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して7億40百万円減少(前年同期は2億57百万円の増加)して22億96百万円(前年同期は25億84百万円)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果14億56百万円の資金増加となりました。前年同期は16億29百万円の資金増加であり1億72百万円資金増加額が減っております。法人税等の支払額が3億74百万円増えたことなどによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果15億16百万円の資金減少となりました。前年同期は9億6百万円の資金減少であり6億10百万円資金減少額が増えています。有形固定資産の取得による支出が6億88百万円増えたことなどによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果6億79百万円の資金減少となりました。前年同期は4億64百万円の資金減少であり、2億14百万円資金減少額が増えています。これは主に、社債の発行による収入が23億35百万円増えた一方で、短期借入金23億1百万円と長期借入金の返済による支出が4億6百万円増えたことなどによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年8月期の連結業績予想につきましては、第2四半期までは売上利益共々好調に推移してまいりました。平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災により、直接的な被害及びインフラの支障により一部店舗において営業面での制約がありましたが、その後の復旧活動により、各業態共営業停止中の店舗は本日(平成23年4月8日)現在僅かとなっており、また業績面での影響も限定的かつ軽微なものにとどまっております。

しかしながら、東日本地区における電力供給力不足が解消されぬまま、電力需要期である夏期を迎えるため、「電力消費制限」または「計画停電」などが実施され、これらによる営業自粛と消費マインドの低下などにより、業績がその直接的間接的影響を受ける可能性があります。現時点では不確定要素が多く、その影響度合いの推測は困難となっております。

以上により、平成22年10月8日に公表いたしました平成23年8月期の通期の連結業績予想については変更しておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

第1四半期連結会計期間より、株式会社スポーツの株式を新たに取得したため、連結の範囲に含めております。
当第2四半期連結会計期間より、株式会社シュ克蘭の株式を新たに取得したため、連結の範囲に含めておりま
す。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる
ため、前連結会計年度末の貸倒実績率を使用して貸倒見積高を算定しております。

②法人税等の算定方法

法人税等の算定方法は、課税所得の計算における加減算項目及び税額控除項目を重要なものに限定する方法によ
っております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計処理基準に関する事項の変更

①資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31
日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を
適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ13,827千円減少し、税金等調整前四
半期純利益は74,734千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務変動額は
132,372千円であります。

②企業結合に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「研究開発費等に係る会計
基準」の一部改正(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計
基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表
分)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成
20年12月26日)を適用しております。

・表示方法の変更

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき財務諸表等規則等の一
部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用に伴い、当第2四半期連結累計期間では、
「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,019,453	3,607,241
受取手形及び売掛金	822,386	514,146
商品	348,501	165,315
原材料及び貯蔵品	124,648	113,462
その他	1,284,389	762,189
貸倒引当金	△17,953	△5,549
流動資産合計	5,581,425	5,156,806
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,073,879	2,619,699
車両運搬具及び工具器具備品(純額)	1,686,184	1,181,245
土地	3,377,129	526,329
リース資産(純額)	106,560	85,210
有形固定資産合計	9,243,753	4,412,484
無形固定資産		
のれん	865,732	981,338
ソフトウェア	166,782	179,280
その他	8,292	4,065
無形固定資産合計	1,040,807	1,164,684
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,242,493	873,673
その他	595,260	373,159
貸倒引当金	△8,406	△5,547
投資その他の資産合計	1,829,347	1,241,285
固定資産合計	12,113,908	6,818,455
資産合計	17,695,334	11,975,262

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成23年2月28日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	572,610	406,659
短期借入金	166,800	66,800
1年内返済予定の長期借入金	1,317,924	1,250,574
1年内償還予定の社債	240,000	—
リース債務	40,628	26,288
未払法人税等	751,712	970,411
賞与引当金	181,579	146,113
預り金	1,082,418	959,295
その他	2,122,556	1,353,166
流動負債合計	6,476,231	5,179,308
固定負債		
社債	2,160,000	—
長期借入金	2,333,674	2,957,836
リース債務	73,665	63,182
退職給付引当金	37,158	—
資産除去債務	291,968	—
その他	695,001	23,111
固定負債合計	5,591,467	3,044,129
負債合計	12,067,698	8,223,437
純資産の部		
株主資本		
資本金	493,600	493,600
資本剰余金	483,600	483,600
利益剰余金	4,531,526	2,712,712
株主資本合計	5,508,726	3,689,912
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△219	△2,348
評価・換算差額等合計	△219	△2,348
少数株主持分	119,128	64,259
純資産合計	5,627,635	3,751,824
負債純資産合計	17,695,334	11,975,262

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年2月28日)
売上高	10,658,113	13,891,257
売上原価	7,456,558	10,063,671
売上総利益	3,201,554	3,827,586
販売費及び一般管理費	1,839,769	2,179,538
営業利益	1,361,785	1,648,047
営業外収益		
受取利息	975	2,626
受取配当金	37	37
協賛金収入	13,444	29,065
その他	23,262	23,571
営業外収益合計	37,719	55,300
営業外費用		
支払利息	24,391	27,609
社債発行費	—	64,091
その他	11,747	14,638
営業外費用合計	36,139	106,339
経常利益	1,363,365	1,597,008
特別利益		
固定資産売却益	1,322	4
負ののれん発生益	—	1,193,951
特別利益合計	1,322	1,193,955
特別損失		
固定資産売却損	199	2,459
固定資産除却損	68,031	59,419
減損損失	2,503	72,057
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	60,906
特別損失合計	70,734	194,842
税金等調整前四半期純利益	1,293,954	2,596,121
法人税、住民税及び事業税	620,815	860,756
法人税等調整額	△10,767	△276,195
法人税等合計	610,047	584,560
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,011,560
少数株主利益	22,061	53,547
四半期純利益	661,845	1,958,013

(第2四半期連結会計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自平成21年12月1日 至平成22年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (自平成22年12月1日 至平成23年2月28日)
売上高	5,901,904	7,757,023
売上原価	3,852,337	5,309,626
売上総利益	2,049,566	2,447,397
販売費及び一般管理費	939,631	1,095,682
営業利益	1,109,935	1,351,715
営業外収益		
受取利息	765	2,122
受取配当金	33	33
協賛金収入	3,676	16,827
その他	13,929	15,257
営業外収益合計	18,404	34,241
営業外費用		
支払利息	11,799	12,306
その他	3,293	12,714
営業外費用合計	15,093	25,021
経常利益	1,113,246	1,360,935
特別利益		
固定資産売却益	537	—
負ののれん発生益	—	25
特別利益合計	537	25
特別損失		
固定資産売却損	131	124
固定資産除却損	35,063	20,890
減損損失	—	64,892
特別損失合計	35,195	85,907
税金等調整前四半期純利益	1,078,587	1,275,052
法人税、住民税及び事業税	524,340	688,354
法人税等調整額	△49,528	△216,600
法人税等合計	474,812	471,753
少数株主損益調整前四半期純利益	—	803,299
少数株主利益	10,926	29,740
四半期純利益	592,849	773,559

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年9月1日 至平成22年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,293,954	2,596,121
減価償却費	657,830	801,662
減損損失	2,503	72,057
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	60,906
のれん償却額	150,975	152,836
負ののれん発生益	—	△1,193,951
賞与引当金の増減額(△は減少)	21,851	16,460
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,690	15,263
退職給付引当金の増減額(△は減少)	—	△19,710
受取利息及び受取配当金	△1,003	△2,663
支払利息	24,391	27,609
有形固定資産売却損益(△は益)	△1,123	2,455
売上債権の増減額(△は増加)	△8,411	△292,435
たな卸資産の増減額(△は増加)	△35,355	△154,839
仕入債務の増減額(△は減少)	△14,939	146,649
その他	57,441	131,091
小計	2,151,804	2,359,513
利息及び配当金の受取額	951	2,223
利息の支払額	△21,242	△28,012
法人税等の支払額	△502,501	△877,422
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,629,012	1,456,302
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△642,481	△1,330,777
有形固定資産の売却による収入	1,380	10
無形固定資産の取得による支出	△12,098	△37,959
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△100,866
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	340,887
敷金及び保証金の差入による支出	△28,285	△88,944
敷金及び保証金の回収による収入	12,420	11,697
貸付けによる支出	△55,188	△161,909
貸付金の回収による収入	5,051	80,324
定期預金の増減額(△は増加)	△184,225	△152,355
その他	△3,200	△77,084
投資活動によるキャッシュ・フロー	△906,628	△1,516,978
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,600	△2,300,000
長期借入れによる収入	389,000	500,000
長期借入金の返済による支出	△650,608	△1,056,812
社債の発行による収入	—	2,335,908
リース債務の返済による支出	△13,144	△19,400
配当金の支払額	△45,600	△139,200
担保提供預金の増減額(△は増加)	△126,183	△10
その他	△20,000	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△464,935	△679,514
現金及び現金同等物に係る換算差額	△182	37
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	257,265	△740,154
現金及び現金同等物の期首残高	2,327,724	3,036,310
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,584,990	2,296,156

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、持株会社制を導入しており、持株会社である当社の下、各子会社は取り扱うサービスについて包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、各子会社を基礎としたサービス別のセグメントから構成されており、下記の4区分を報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属するサービスの種類

- ①「カラオケ」はカラオケボックス店舗の運営を行っております。
- ②「カーブス」はフィットネスフランチャイズの運営及びフィットネスクラブ”カーブス”店舗の運営を行っております。
- ③「ボウリング」はボウリング場の運営を行っております。
- ④「不動産管理」は賃貸等不動産の管理を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年9月1日 至 平成23年2月28日）

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	カラオケ	カーブス	ボウリング	不動産管理	計				
売上高									
外部顧客への売上高	8,643,176	3,610,427	1,464,699	95,410	13,813,713	77,543	13,891,257	—	13,891,257
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	193,128	193,128	—	193,128	△193,128	—
計	8,643,176	3,610,427	1,464,699	288,538	14,006,841	77,543	14,084,385	△193,128	13,891,257
セグメント利益又はセグメント損失(△)	1,140,293	567,196	△77,137	141,863	1,772,215	△22,817	1,749,398	△101,350	1,648,047

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△101,350千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結会計期間（自 平成22年12月1日 至 平成23年2月28日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	カラオケ	カーブス	ボウリング	不動産管理	計				
売上高									
外部顧客への売上高	4,831,295	2,003,590	815,954	47,985	7,698,826	58,197	7,757,023	—	7,757,023
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	96,564	96,564	—	96,564	△96,564	—
計	4,831,295	2,003,590	815,954	144,549	7,795,390	58,197	7,853,587	△96,564	7,757,023
セグメント利益又はセグメント損失(△)	1,014,135	292,776	37,407	62,855	1,407,174	2,467	1,409,642	△57,927	1,351,715

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、温浴事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△57,927千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自 平成22年9月1日 至 平成23年2月28日）

（固定資産に係る重要な減損損失）

「カラオケ」セグメントにおいて72,057千円の減損損失（特別損失）を計上しております。その主な内訳は、投資額の回収が困難と見込まれる営業不振店舗ならびに閉店店舗となっております。

（重要な負ののれん発生益）

「不動産管理」セグメントにおいて、平成22年9月1日付で株式会社スポーツの株式を新たに取得したことに伴い、1,193,951千円の負ののれん発生益（特別利益）を計上しております。

（追加情報）

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。